

# 活動報告書

## 1 【基本情報】

分科会 A

報告者氏名：武内 咲子

所属：北海道 森町立さわら小学校

記録日：2022年2月28日

キーワード：表現、自己肯定感、文章

貸与機器：iPad

## 2 【対象児の情報】

・学年：小学校3年生（9歳） 特別支援学級

・障害名 知的障がいを伴う自閉症

注意欠損多動性障がい（AD/HD）

・困難の内容

### ① 書くこと

・文字を書くとき、思い出すことに時間がかかり、次の活動が遅れてしまう。時間がかかっても最終的には思い出すことが多いため、時間と経験の保証が確保されることで解決を図っていく。

### ② 自己肯定感

・本人ができないと感じることや分からないと思うことがあると、泣き出すことがある。通常学級で交流学习へ行くと、自分から友だちに話しかけることはほとんどないことから、自信がないことが原因の一つと考えられる。

## 3 【活動目的】

・本活動のねらい

① 興味のある活動を通して、文字（手紙など）で自分の思いや意見、考えが表現できるようになる。

② できる見通しを支え、自己肯定感を高める。

・実施期間：2021年6月23日～2022年2月11日

・実施者：武内 咲子

・実施者と対象児の関係：特別支援学級担任とその学級の児童

#### 4 【活動内容と対象児の変化】



・対象児の事前の状況

- 興味のある学習に楽しんで取り組むことができる。
- 算数（特に計算問題）が得意。筆算の繰り上がりがある問題を初めて学習した際は、繰り上がりの方法を自分で考えて正確に計算することができた。
- 仲の良い友だちや教師と会話することを好む。
- 昼休みは友だちとお絵描きや工作、ぬりえをして楽しく過ごしている。
- 活動をするときは楽しんで取り組もうとする姿勢がある。
- △宿題は週に一度ほど忘れることがある。やっていないときに持ってこない場合が多いと思われる。
- △覚えておくことに困難さがあり、時折片仮名や平仮名を忘れてしまうことがある。
- △学習に対して気が向かない時や時間稼ぎをしたいときは、あまり考えずに「これ何て読むの。」「分からない。」と何度も聞き、分からないふりをすることがある。
- △生活経験が少なく、手先が不器用。自立活動の学習で箸の使い方や蝶々結び、紐通しなどの微細運動が徐々に上手になってきた。
- △授業中の書く活動や手先を使う活動では時間がかかるため、次の活動に移るときに遅れてしまう。
- △できないことがあったときに泣き出すことがある。
- ・体育・図工・音楽・外国語（ゲーム、会話など活動のみ）は通常学級で交流学习をしている。

#### 【活動の具体的内容】

- ① 平仮名・片仮名アプリで文字の並び替え練習により、五十音を覚える。
  - ・写真の上から文字を入力する、手紙を書くなどの活動により、文字を使って表現できるようになる。
  - ・安心して課題に取り組むことができるように、課題を行う際に50音表や九九表、漢字一覧表をいつでも確認できるように手元に置いておく。
  - ・日記アプリや日記（プリント）を活用し、文章力を高める。
 →写真と文字を組み合わせてできる絵日記アプリを使い、休みの日のできごとを友だちや担任に伝える。
- ② 漢字の書き方アプリを使い、字形を覚える。
- ③ 九九アプリを活用し、覚える。
- ④ 絵本アプリを使い、様々な言語表現に触れて語彙を増やす。

#### 【対象児の事後の変化】

使用したアプリ	児童の様子	事後の変化
 <p>ひらがなめっちゃわかるもん！ （国語の授業、週に2度ほど、10分程度）</p>		<p>① 平仮名・片仮名アプリで五十音を覚える。</p> <p>・いつも一緒に遊んでくれる、特別支援学級の4年生に手紙を書きました。最初は「どんなことを書けばいいの。」と言っていたが、「いつも遊んでくれてありがとう。」や「また遊んでね。」などの書き方の例を示したら、楽しんで取り組んでいた。</p>



Photo

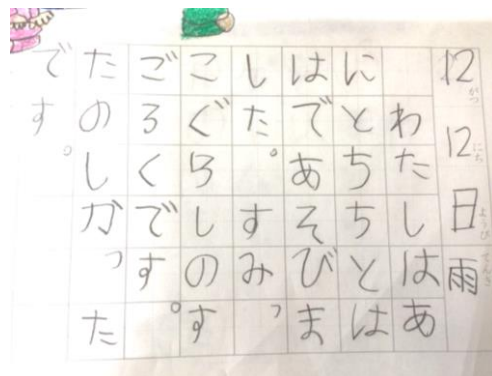
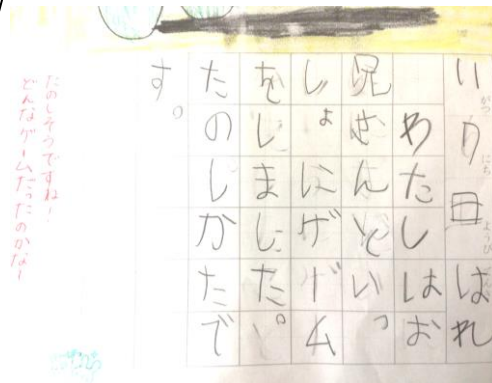
(総合や学活の授業、週に1度ほど、15分程度)

教師は「どの写真にする。」「どんな言葉にしようか。」などの声掛けをして関わった。

最初は教師が「土日はなにをしたの。」と質問しながら文章を考えた。国語の時間で行っていたが、宿題として出すと言葉の間違いはありながらも、文章の順番を考えて書くことができるようになった。



〈(プリント) 絵日記〉  
(週末の宿題として出した)

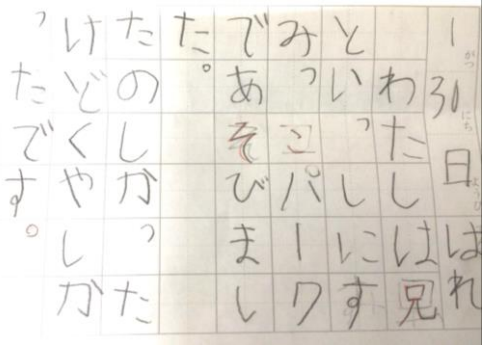


・写真を編集して文字を入れる取り組みも行っている。文字入力する際は、音声入力やフリック入力で行っている。

・写真の編集をする際の入力方法では、トグル入力を覚えたあと、フリック入力を教えると、すぐ覚えて使っていた。

・プリントの絵日記の学習では、「誰と」「何をしたか」「気持ちはどうだったか」をポイントに指導した。作文の書き方に気を付けながら取り組んでいた。

教師は「どんなことをありがとうと伝えたい。」と尋ねたり、正しい助詞に言い直したりして支援した。



・特別支援学級の友だちに手紙を書いた。「ありがとうと伝える手紙にしようね。」と話すと楽しく遊んだ時のことを書いていた。絵を描くことが好きなので、喜んで模様やイラストを描いた。



小学1年生漢字練習ドリル  
(国語の授業、週に2度ほど、10分程度)

② 「1年生の漢字が全部終わったけど、2年生の漢字をやってみたい。」と聞くと、「やってみたい。」とはりきってアプリで学習に取り組んでいた。少しずつ意欲を高めることができているように感じている。今現在、1年生の漢字を全て学習し終え、定着を図りつつも2年生の漢字の学習に入っている。



9×9カード  
(算数の授業、週に2度ほど、10～15分程度)



③ 得意の算数では、九九の動画と一緒に歌ったり問題を解いたりして9割ほど覚えた。問題を解くときは時間はかかることがあるが、自分の力で思い出そうと頑張ることが多い。



絵本が読み放題！  
知育アプリ PIBO  
(自立の授業、週に5度、  
15分程度)

④ 絵本アプリで本を読み聞いたあと、本の物語について話し合うことで語彙力の向上を図っている。今後も継続して取り組む。

## 5 【報告者の気づきとエビデンス】

・報告者の主観的気づき

○文字（平仮名、片仮名）を思い出すために考える時間が短くなった

夏ごろは、一文字思い出すために10～20秒ほどかかることが多かった。ひらがな表をいつでも見られる場所に掲示していることで、分からないと悩む時間が減ったのではないかと思う。考えることはあっても、5秒ほどの短い時間になった。

また、文字を書く活動に前向きに取り組むようになった。平仮名と片仮名の練習を繰り返していくうちに自信がついたのか、プリント学習の際はひらがな表を見ずに問題に取り組んでいる様子が見られた。

○ネガティブな言葉が減った

以前はできないことがあるとすぐ諦めたり、「分からない。」「できません。」と言ったりする様子があり、泣き出すこともあった。最近では、できないことが原因で涙を流すことは少なくなった。さらに、分からない問題があっても粘り強く考えるようになったと感じる。または、「ヒントをください。」と言い、自分で答えを導き出そうとする姿勢も見られた。

○他者に伝えようとするが増えた

絵日記を描いてきたときに、「どんなおもちゃだったの。」など、その内容について質問すると楽しそうに話していた。週末の休み明けなど、休日にどんなことをして過ごしたか話すようになった。

休み時間では、今年度卒業する支援学級の友だちに自分から手紙を書いていたこともあった。

交流学习の授業（音楽）をしているときでは、授業の感想（振り返り）を述べる際、積極的に挙手をして発言していた。授業が終わったあと、「楽しかった。」とつぶやいていたので、授業者の教師に伝えたら、と声掛けすると元気な声で伝えていた。

○すすんで文章を読もうとするが増えた

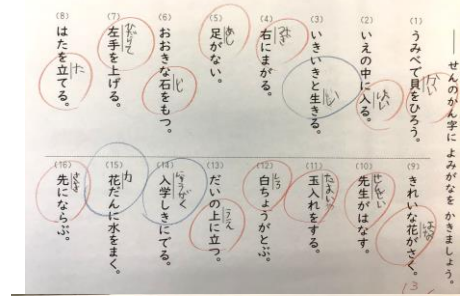
本や動画のテロップ、プリントの問題文など、文章を読もうとするが増えた。読むことができる漢字が増えたためと思われる。

・主観的気づきに関するエビデンス

◆国語の1年生漢字プリント

7月	2月
11 / 16点	14 / 16点

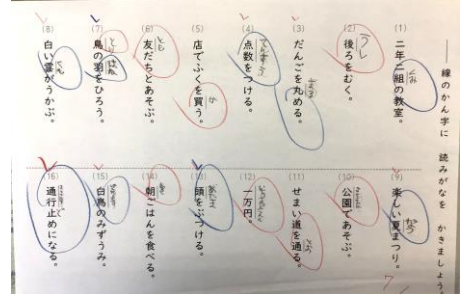
7月に実施したときより3点上がっている。漢字の学習をしていると、訓読みの習得率は高く、音読みの習得率が低いことが分かった。



◆国語の2年生漢字プリント

7月	2月
7 / 16点	13 / 16点

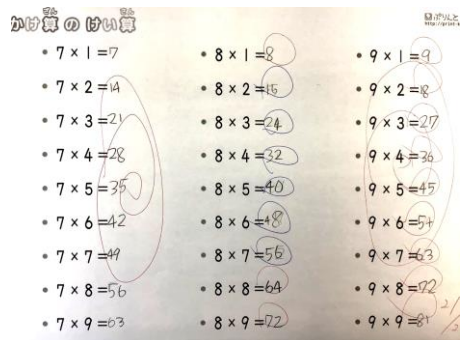
7月に実施したときより6点も上がった。1年生と2年生の漢字を並行して学習していたため、2年生の漢字の読みの方が正答率が上がったのではないかと思われる。



◆算数九九プリント

7月	2月
21 / 27点	26 / 27点

九九については、学習を始めたときには既に習得率は高かったが思い出すまでに時間がかかった。練習を繰り返していく内に、ぱっと思えることができるようになってきた。



・活動において特徴的なエピソード

① 絵本の読み聞かせ

いつもは読み聞かす立場だったが、国語の音読の学習では、児童が読み聞かせる側で発表した。自分で好きな本を選んでスムーズに読めるまで練習した。発表会の本番の日は町の教育委員会から指導主事が訪問しており、先生と友だち以外の人が見ている状況で緊張していたが、練習の成果もあってハキハキと元気な声で発表することができた。見どころの大きい声で読むセリフも恥ずかしがりながら、気持ちを込めることができた。終わったあとは、満足そうな表情をしていた。本人の自信につながったのではないかと思います。



② 学習発表会

学習発表会では演劇でニワトリの役を演じた。最初は恥ずかしがりだったが、本番では大きい声で堂々と発表することができた。その後に明らかな良い影響があった訳ではないが、本人の自信につながったと思うエピソードであった。